

研究開発成果 実装支援プログラム
平成21年度 報告書

実装活動の名称

「発達障害の子どもと家族への早期支援システムの社会実装」

採択年度 平成21年度

実装機関名 国立精神・神経センター/精神保健研究所

実装責任者 神尾 陽子

1. 概要

最近、発達障害のある子どもへの育ちについて、早期診断と早期介入が重要であることがわかってきた。わが国では発達障害者支援法（平成17年施行）が発達障害の早期発見と早期支援を掲げているものの、取り組みは始まったところである。本研究はわが国の全国に普及している乳幼児健診システムに注目し、これまでに不十分だったノンバーバルな対人コミュニケーションの発達に関するアセスメント・バッテリーをトッピングすることによって、地域の乳幼児の発達にかかわる専門家（保健師や小児科医など）が発達障害の早期徴候を発見から支援にスムーズにつなげるような乳幼児健診が全国どこの地域でも可能となることを最終目標とし、専門家を対象とした学習ツールを開発し、発達障害児の早期支援システムの社会実装を目指すものである。

2. 実装活動の具体的内容

当該年度の目標は、実装対象となる自治体（舞鶴市と新居浜市）の具体的なニーズに基づいて全体計画を作成し、それにもとづき実装対象自治体内の保健師など専門家個人向けの各種教材（DVD、ハンドブック）を作成し、キーパーソンとなる専門家の発達障害の早期支援に関する短期的な技能向上を目指すものであった。

- **自治体の実態とニーズの把握**：実装対象の自治体（京都府舞鶴市と愛媛県新居浜市）からの聞き取りやアンケートによる、それぞれの実態とニーズを収集した。それらを踏まえて、本プログラムの最終目標を自治体担当者とは打ち合わせを行い、相互に確認しあった（舞鶴市との連絡会議 2010.3.8 国立精神・神経センターにて 11 名参加、新居浜市との連絡会議 2010.3.10. TV 会議にて 15 名参加）。年度内に別の某自治体担当者とは実装可能性について検討を始めており、現在交渉中である（2010.2.16 国立精神・神経センターにて 10 名参加、3.18 福岡県宗像市と連絡会議 4 名参加）。
- **自治体の市民向け啓発活動の準備**：当該年度終了（平成 21 年 11 月終了）の JST 研究成果（脳科学と教育）で作成したリーフレットを自治体（舞鶴市、新居浜市）に配布し、保健師らのモニター調査を行った。その結果、舞鶴市では現行の10か月健診で受診する保護者全員に配布することが決定した。H22 年度4月からの開始に向けて、乳幼児健診担当の保健師対象に、1 歳前の子どもを持つ親対象に注意を喚起したい内容とその意義について、また親から相談を受けた際の対応や助言などについて、講義と研修を行った（舞鶴市 2010.2.16、福岡県宗像市 2010.3.18）。
- **実地研修およびテレビ会議を通じた健診スタッフを対象とするケース検討**：これらは、上述の2自治体で乳幼児健診に携わるスタッフ（保健師、臨床心理士、児童精神科医など）を対象に、幼児期早期（1歳6ヵ月から2歳）に、自閉症が疑われるケースの早期発見と事後指導や助言の仕方についてスキルアップを目的として行った。

実地研修は、当センターでの幼児面接と、実装グループが近隣の自治体で実施している相談面接、計5ケースに2自治体の保健師が陪席し、実際のアセスメントと助言の実際を見学してもらい、後のケース検討に参加してもらった。TV会議でのケース検討に際しては、事前に実装グループがカンファレンス用に作成したケース概要フォーマットを用いて、自治体健診スタッフがケース概要、アセスメント結果、見立て、そして経過とフォローの実際などについて準備した資料をもとに、自治体スタッフ全員と実装組織全員とが参加してテレビ会議を行った

(舞鶴市 2010.2.16)。TV会議で取り上げるケースの基準として、子どもの行動特徴がアセスメント時、あるいはフォローの過程で発達障害の典型的でないように思われ判断に迷うケース、保護者が子どもの発達上の困難に気づきが弱く、支援の必要性を感じていないなど保護者への対応に困るケース、など講義では取り扱えない多様なケースを優先的に選んだ。

この結果、実際に健診場面の見学を通して対応の実際を確認でき、また見立てのチェックポイント、親対応の工夫のあり方などを確認することができた。これらのケース検討記録は、将来、アーカイブ化するために、個人情報観点から特定が不可能となるように加工を加え、公開を前提に様式を整えて記録に残した。

- **研修素材の作成:**①H22 年度に予定している健診スタッフを対象としたスキルアップを目的に、研修用 DVD を作成した。撮像の主旨をご理解いただきご協力をいただいたご家族と子どものアセスメント場面の撮像を行った。

②加えて、DVD で自己研修を行った研修参加者が、発達障害児の早期兆候に関する知識や技能についての達成度を各自で簡便に評価しながら研修を継続できることを目的としたプログラムを作成した。本プログラムの仕様は、各研修参加者を ID で管理し、研修の進行状況を確認できるようになっている。研修参加者はそれぞれの ID を打ち込んでから選択肢形式の設問にパソコン上で回答する。研修参加者は本プログラムをインストールすれば複数のパソコンで各自、課題を行うことができる。回答は、国立精神・神経センター精神保健研究所の実装グループに送付してもらい、エクセルソフトを用いて集計し管理する。

① と②を組み合わせて、各自、継続的に研修を行えるように考慮した。学習の進捗状況は適宜確認しながら、進行に問題が生じた場合にはできるだけ迅速に対応することとする。

- 達成度確認の問題とともに自己効力感に関する調査項目を決定し、来年度実施に向けて最終調整中である。

自己効力感は学習の継続に重要なので、上記プログラムに含める。

本プログラムは、E-learningシステムのようにサーバーを必要とせず、オフラインで回答、集計が行えるためセキュリティ面において安全である。そのため、オンライン上での問題、および回答の流出はあり得ないと考えられる。またサーバーなどが必要ではないため、手軽、かつ低コストで運用できるメリットがある。さらに、問題を容易に追加・変更することができるよう、システム設計がされている。しかし、研修参加者が数百、もしくはそれ以上に及ぶと、実装グループ側の集計に時間と手間を要することになる。そのため、本プログラムはHTML方式に特殊なプログラムを組み込んで作成されており、将来的に大人数に対応できるよう、サーバーを介してE-learningシステムの一部として運用することもできるようシステム設計上の工夫がされている。

サンプルは次ページに示す。

視線追従のアセスメント



ふり遊びのアセスメント



親記入式質問紙を使ったスクリーニングの試み

- **社会性の早期発達に関する行動項目** (M-CHATから抜粋)

アイコンタクト (#10)

呼名反応 (#14)

模倣 (#13)

注意喚起 (#19)

指さし追従 (#15)

要求の指さし (#6)

興味の指さし (#7)

興味あるものをもってきて見せる (#9)

視線追従 (#17)

ふり遊び (#5)

感覚遊びからの脱却 (#8)

社会的参照 (#23) 番号はM-CHATの項目番号です



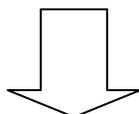
ふり遊び

DVD確認問題

ユーザーIDを入力してください。

User ID

ユーザーID入力後、回答開始



DVD 確認問題

確認問題

発達障害児と家族への早期総合支援を見て、以下の質問に教えてください。

質問1 1-1. 1歳 何でしょうか？

- 自閉症スペクトラム障害
- 注意欠如/多動性障害 (AD/HD)
- 学習障害 (LD)
- 発達性協調運動障害

質問2 1-2. 自閉症スペクトラム児の早期発見が重要なのはどうしてでしょうか？

- 成人病を予防するため
- 早期から子どもの特性に合った支援を開始するため
- 保育園に入園するため
- 塾に通うため

質問3 2-1. 1歳6か月健診で使用できる自閉症スペクトラム児のスクリーニングツールは何でしょうか？

- CAT
- M-CHAT
- KIDS
- SKYPE

質問4 3-1. 3歳までの自閉症スペクトラムに共通する特徴は何でしょうか？

- 歩き始めるのが遅い
- 漢字が読める
- 通常1歳6か月頃までにみられる社会的行動がない、または乏しい
- ピアノが弾ける

回答後、一番下にある入力終了ボタンを押して終了出力データは、エクセルで集計し、回答者にフィードバックする。

3. 成果

本年度の成果については、対象自治体の研修参加者のヒアリングとアンケートを行った段階であるので、今後さらなる活動内容の実装とその改善を行い、明確な成果を報告したいと考えている。

(1) 出願（公開は考えていない）

“本事業の成果に係わるものについて、出願者（研究機関、JST、その他）に係わらず記載してください。職務規程や共同出願人との取り決めなどで記載できない情報はその限りではありません。”

①国内出願（ 0 件）

1. “発明の名称、発明者、出願人、出願日、出願番号”
- 2.

実装支援プログラム 年度報告書 様式

...

②海外出願 (0 件)

1. “発明の名称、発明者、出願人、出願日、出願番号”
- 2.